

Dd千代田431でたまねぎの収量アップ!

北海道はまだ雪の季節ですが、温室では春に植えるたまねぎの育苗が始まっています。近年、北海道のたまねぎ栽培では、夏季の高温による早期枯凋や肌焼け・傷みなどが大きな問題となっています。そこで、たまねぎの初期生育確保と、生育後期の草勢維持を両立する肥料、Dd千代田431を紹介します。

Dd千代田431は、千代田化成と、亜リン酸・Dd(ジシアンジアミド)入り化成を配合した肥料です。千代田化成の速効性と、Ddによる肥効の持続性、さらに亜リン酸による生育への効果も期待できます。

Dd千代田431 保証成分

窒素		リン酸		カリ	ホウ素
TN	AN	TP	WP	TK	WB
14	11	13	9	11	0.1

【試験方法】

試験場所:北海道北見市

供試品種:「北もみじ2000」

定植:2025年4月28日

収穫:2025年9月2日

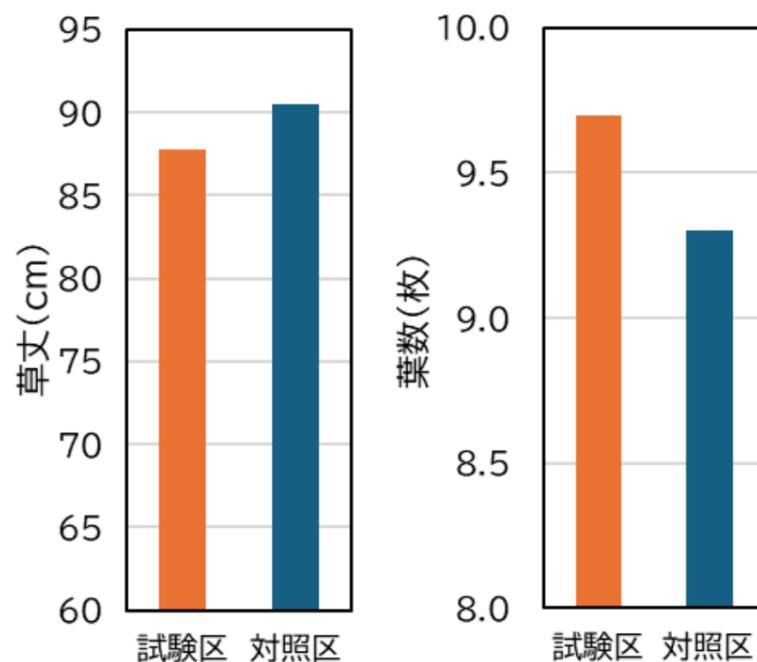
施肥設計(基肥・全層施肥)

処理区	銘柄	施肥量	N	P	K
試験区	Dd千代田431	100kg	14.0	13.0	11.0
対照区	化成12-23-7	120kg	14.4	27.6	8.4

【試験結果】

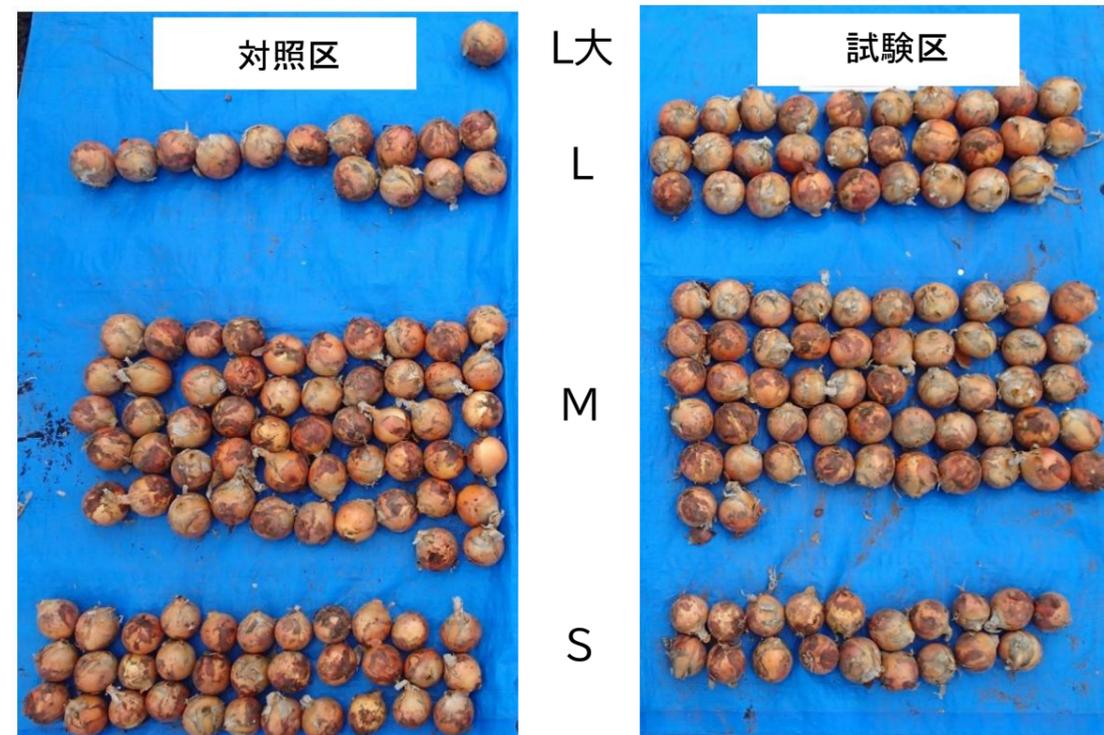
● 7月中間調査

- ・試験区の草丈は対照区よりもやや低かったが、葉数は多かった。
- ・圃場の観察でも、試験区の生育は明らかに対照区より進んでいたため、肥大促進が期待できた。

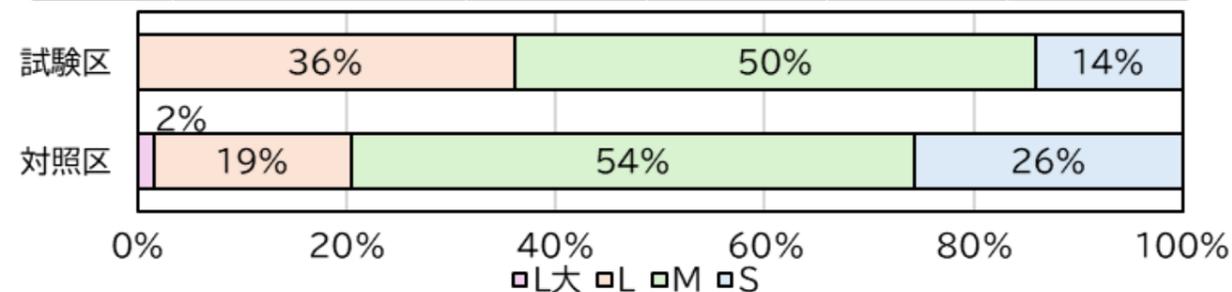


● 収穫調査

- ・試験区は収量およびL球以上比率が高まった。
- ・中間調査の葉数など、生育前半の生育が収量向上につながった。



処理区	収量(kg/10a)			
	L大	L	M	S
試験区	5,043 (106)	0	1,820	2,511
対照区	4,755 (100)	80	896	2,557



【考察】

- ・2025年の北海道のたまねぎは、夏季の記録的な高温と少雨のため、球肥大が悪く不作でしたが、千代田化成の速効性や亜リン酸の効果により初期生育が確保され、葉の展開枚数が増加、さらに肥大開始期突入が早まって肥大期間が長くなったため、L以上規格%の増加に繋がったと考えられます。
- ・また、Dd(ジシアンジアミド)による持続的な肥効が効果的に発揮され、生育全期間において肥効が維持されたことも、収量増加に結び付いたと考えられます。